

学習活動分野の現状と課題

社会情勢の変化

- 人生 100 年時代の到来により、子どもから高齢者まで、**生涯にわたり学び多様な活動に参画することが重要**である。
- Society5.0 に備え人間の強みを発揮し AI 等の先進技術を活用するために、「文章や情報を正確に読み解き対話する力」「科学的に思考・吟味し活用する力」「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求心」が必要であり、それらの育成に向け「**個別最適化された学びの実現**」が求められている。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、**学習活動を行う施設の利用形態の再考や非接触型の講座開催**など新たな学びの仕組みが求められている。
- SDGs での「すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ため、**学習活動の拡充が期待**されている。

政策動向

① 教育基本法、教育振興基本計画

- 教育基本法が平成 18 年（2006 年）に改正され、生涯学習の理念が示された。また、教育振興基本計画が平成 20 年（2008 年）に策定され、現在第 3 期計画が運用されており、生涯学習分野での 4 つの目標が示されている。
 - ① **人生 100 年時代**を見据えた生涯学習の推進
 - ② 人々の**暮らしの向上と社会の持続的発展**のための学びの推進
 - ③ 職業に必要な知識やスキルを生涯にわたり身に付けるための社会人の**学び直しの推進**
 - ④ **障害者の生涯学習**の推進

② 文部科学省 中央教育審議会

- 平成 30 年（2018 年）12 月には、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」が答申され、社会教育を基盤とした「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の重要性が示されている。
 - ① 学びへの**参加のきっかけづくり**の推進
 - ② 多様な主体との**連携・協働**の推進
 - ③ **多様な人材の幅広い活躍**の促進
 - ④ **社会教育の基盤整備と多様な資金調達**手法の活用

③ 「文の京」総合戦略(令和2年策定)

- 多様性に富んだ共生社会において、すべての人が、**主体的な地域活動や文化的な学びの場**などを通じて、個性や能力を十分に発揮でき、暮らしの中に安心と豊かさのあるまちを目指している。

点検・評価と実態調査結果からわかったこと

① いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

- 地理的・時間的制約が少ないオンライン講座と実際の体験を通じた学習等が可能な対面型講座の特長を活かし、**多様な学習機会を提供**することが必要である。
- 区内大学と連携した講座開催により、区民の**多様なニーズに対応した学びの機会を提供**することが必要である。
- あらゆる立場の人たちが、各々の**ライフスタイルやライフステージに適した学習**に取り組むことができるための支援が求められている。
- コロナ対策やデジタル化対応という側面から、電子書籍の必要性が高まっており、「**文の京デジタル文庫**」のさらなる**充実**が求められている。
- 令和元年実施の「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査」の区民向け調査（以下「区民向け調査」）では、この 1 年間に学んだ際の方法として、「**読書を通じて**」（52.8%）が最も多く、次いで「**インターネット(e ラーニングを含む)を通じて**」（47.8%）、「**民間の講座・教室等を利用して**」（24.0%）となっている。

② 一人ひとりが学びの成果を活かす機会の提供・充実

- 学びの成果を生かす機会として区民が講師となる区民プロデュース講座は実施しているが、今後は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、**各種自主学習活動を支援**し、安心・安全に日頃の**学習成果を発表できる場を充実**することが必要となる。
- 人材育成講座を修了した有資格者のスキルアップや相互の連携協力の促進など、**学びを通じた人づくり・つながりづくり**が求められている。

③ 学びの継続を通じたまちづくり

- 区民が交流し、学び合う機会をさらに活かしながら、学びで得たことを**継続的に地域に還元する仕組み(学びの輪)を構築**すること必要である。
- 社会教育関係団体の実態や活動状況を継続的に把握し、**団体での活動を希望する区民に対して情報提供**することが求められている。
- **文京お届け講座に関する情報発信を強化**することで実施講座数の増加を図るとともに、新型コロナウイルス感染防止対策のため**オンライン実施**も必要である。
- 区民向け調査では、区民が学習活動で得た内容を地域や他人のために活かすために区がより力を入れるべき取組として、「**わからない**」（28.9%）が最も多く、次いで「**地域活動・ボランティアの情報提供**」（28.5%）、「**地域での活動も組み込まれた講座**」（25.9%）となっている。

次期計画に向けた現状と課題

- どのような立場・状況にいる人でも、思い立ったときに、好きなところで学びを実践できる機会をより充実することが重要である。
- 外国人や障害者などへの学習活動の支援も重要であり、あらゆる人たちが平等に生涯学習の場を確保できるような環境づくりが必要である。
- オンラインを活用した講座の拡充、SNS や口コミによって区民同士の間で評判が流通するような仕掛け、あらゆる区民層に対する学習事業の提供の充実が求められる。
- 生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターなどが、地域における学びの輪の中核を担う人材として活躍していくために、相互に連携協力できる支援が必要である。
- 区民が学習活動で得た内容を地域や他人のために活かすことについて、区民が十分に意識・理解しているとは言えない状況となっている。学びを人づくり、つながりづくり、地域づくりに活かすことの意義や必要性を伝え、理解してもらうことが重要である。

この部分に対するご意見を
資料 2 にご記入ください。

- ・今後 5 年間の施策を検討する上で、考慮したほうがよいと思われることをご記入ください。
- ・この資料から読み取れることだけでなく、ご自身の経験からのご意見でも結構です。